

日本の電気製品が 世界の人々を豊かにした。

第二次世界大戦前後まで、日本の電気製品の普及度は欧米に比べるとたいしたことはなかった。戦前から電球は各家庭に生活必需品として入っていた。電蓄、電動式の扇風機、冷蔵庫、アイロン、掃除機などの家電品はあったが贅沢品であった。

戦後になって、「電気力」に関心が注がれ、数々の電気発明品が日本で出現した。

トースター・ドライヤー・電気炊飯器・洗濯機などが1950年代に開発された。これらは、あったらあったで便利な商品だ。

1948(昭和23)年 帝国電波(クラリオン)カーラジオ、日本市場に発売

1953(昭和28)年にテレビ放送がはじまり**白黒テレビ**でプロレスの力動山が活躍、日本中が熱中した。

1954(昭和29)年、ソニーの前身・東京通信工業がトランジスターを開発し、真空管にかわる小型・省電力のラジオを発売し世界にソニーの名を響かせた。この年に松下は**電気掃除機**を発売した。

1955(昭和30)年代、**ステレオ**がLPレコードと共に一般家庭に入ってきた。

家電の普及

1956(昭和31)年、神武景気が続き、白黒テレビ、電気洗濯機、**冷蔵庫**が普及。日本は国連に加盟(戦後11年後)。

1958(昭和33)年から昭和36年まで岩戸景気が続き、賃金の伸び率は年平均16.7%という高率だった。

1958年の人口は9300万人(戦後1945年の人口は7200万人)、戦後13年間で2100万人(30%増)の団塊の世代が増え、日本経済は急伸。1959(昭和34)年に昭和天皇の皇太子ご成婚があり、テレビ受信帯は90万から200万に急伸した。

インスタントラーメン、インスタントコーヒーが出現し、国民生活は便利になった。

1960(昭和35)年には、所得倍増計画が発表された。**カラーテレビ放送**も始まった。

AVの普及

1964(昭和39)年の**東京オリンピック**を契機に日本の国力は向上し(高速道路、新幹線...)、戦後23年の1968(昭和43)年に日本の**GDPは世界2位**に躍進した。国内需要の伸びと欧米アジアを中心とした**輸出の拡大**が経済に寄与した。国民の年収は年々増え、家庭の電化が進み、**自動車**が普及、新聞・テレビ・雑誌文化が充実、国民生活は豊かになった。

1970(昭和45)年から**エアコン**の普及が進み、人々の生活はより快適になった。**1970年代に入りオーディオブームが到来**。ラジカセなどの娯楽品が出てきて、家にいながら外国のドラマや音楽が楽しめるようになった。

エンターテインメントの世界が飛躍的に広がった。ソニーの**ウォークマン**は「音楽を外で楽しむことを可能にした」

1970年 大阪万博 ケータイ電話の一番最初の方式はアナログ方式で自動車電話。

1970年代には**オーディオコンポ**、**ビデオレコーダー**、**レーザーディスク**普及、

1976年、**日本ビクターのVHSビデオが世界標準規格**となる。年間売り上げが1000億円台であった日本ビクター(JVC)は年平均40%の成長を続け、わずか6年で売上高6000億円台に到達、利益は4年間で10倍まで拡大した。

1979年 アナログ大都市(セルラ)方式の自動車電話サービスが日本で開始されたのは1979年

1980年代には**ビデオカメラ**、**CDプレーヤー**

1981年 ホンダ 世界初のカーナビ搭載

1984年 携帯電話アナログ中小都市方式(全国広域サービス)開始 1985年 電電公社民営化しNTTに

1987年 現在のように、手のひらに乗るようなハンディタイプの無線電話が市場に出てきたのは、1987年。

ここでようやく携帯電話と呼ばれるようになった。

1989年 携帯電話デジタル化1G'。1993年 2G(メール)'。2001年から 3G(写真の送信)

1990年代には**ハイビジョンTV**、**デジタル衛星放送**

1995年 **パソコンウィンドウズ95始まる** モバイルIT社会のスタートと共にリチウムイオン電池普及が加速

1998年には日本のパソコン普及率30%を超える

2000年代以降、インターネットが急速に普及 **2000年代に入り、電気自動車、現在の第三次ブームが到来**

2000年代には**プラズマTV**、**ブルーレイディスク**、**3DTV**、**有機ELTV**、**インターネット融合携帯電話**

2010年代には**スマートフォン4G(2007年)躍進、動画送信が可**。タブレット、自動運転車が出現

2020年代 移動通信技術5G(機械の遠隔操作など可能になる

スマホの普及

パソコンの普及

電気自動車の普及

戦争で敗戦し、ずたずたになった日本だが、戦後の高度成長期には日本といえば「世界の奇跡」「電化製品の国」と言われるようになりメイドインジャパンの電気製品は全世界に普及した。日本の電気製品は世界の人々の羨望的であった。

同時に、この高度成長期に海・川・大気は汚染され健康と生命に悪影響を及ぼした。世にいう公害だ。熊本水俣病、四日市ぜんそく、神通川イタイイタイ病、新潟水俣病の4大公害が社会問題となる。

家電品普及の背景には、電力事情の向上が社会のベースを支えていたことを忘れてはならない。

東京オリンピックの前年の1963(昭和38)年10月26日、日本で最初の原子力発電がおこなわれ、3年後の1966(昭和41)年7月に東海村で日本初の商業用発電がスタートした。1970年代以降、日本の原子力発電は本格化していった。

生活必需品はほぼ行き渡り、現在の電気製品は一時ほどの勢いはないが、ウオッシュレットとか、家電でも環境対応の冷蔵庫・洗濯機など新しい商品が提案されている。

日本の電気製品は世界のたくさんの人たちにとって「ドラえもん」のようであった。